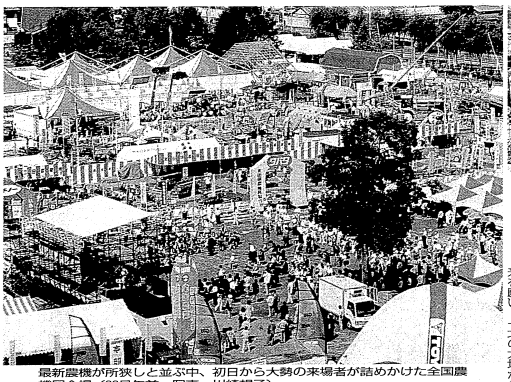
十勝毎日新聞
発行所
十勝毎日新聞社
〒080-8688帯広市東1条南8丁目
電話―編集22-2121、広告23-2323、経務・販売24-2222
©十勝毎日新聞社 1998

〝農機の祭典〟華やかに幕開け


最新農機が所狭しと並ぶ中、初日から大勢の来場者が詰めかけた全国農機展会場（22日午前、写真・川崎想子）

テープカットで幕を開けた農機展（写真・折原徹也）

第29回全国農業機械展

最新鋭機勢ぞろい
初日から盛況 熱心に説明聞き入る

【政経部＝兜玉匡史】四年に一度のビッグイベント「第二十九回全国農機械展示会」が二十二日午前九時、帯広市内の十勝農協連家畜共進会場敷地（西二四南九、帯広競馬場南側）で開幕した。過去最高の九十四社が二十六日までの五日間、農機二千三点を展示し、最新農業技術の〝競演〟を繰り広げる。快晴に恵まれた初日は開場とともに大勢の来場者が詰めかけた。（21面に関連記事）

主催は、十勝地区農協組合長会、ホクレン、北海道農業機械工業会、今世紀最後となる展示会のテーマは、転換期にある農業の明るい未来を願い、「北の大地から『あなたに希望を』」と設定した。

開会式は会場中央のイベント広場で行われ、田村守啓・十勝農業機械協議会会長（JA帯広かわにし組合長）は十勝の農業と機械の歴史を紹介し「農業が基幹産業と言われるのも機械化農業をはじめ商工業が支えてくれたからこそ。今後も連携共生を求めながら、展示会を通じて不断の十勝の農業の発展に寄与したい」とあいさつした。

来賓の祝辞に続き、中山昭一・農林大臣、鈴木宗男・衆内閣官房副長官、中川一人・帯広市長がテープカットに臨んだ。

会場には、農業機械メーカーなど九十四社が二千三点を展示。高校ブラスバンドのファンファーレの中、来賓らが三二会場に広がった。

長の説明に聞き入る来場者らが詰めかけ、帯広短大農業機械研究会の学生が主催する「十勝国際シンポジウム」が開かれる。

「アジアの農業と機械化」
あす国際シンポ

【政経部】北海道の農業をめざして」が二十三日午前九時から、帯広市内の北海道ホテルで開かれる。

全国農業機械展示会の関連事業として、農業機械学会、日本農作業学会、北海道農業機械学会の三学会主催、道農業機械化研究会、北海道農業機械工業会、十勝農業機械協議会の協賛で開かれる。

農業機械学会の会長で、東京農工大農学部の村田泰彦教授が「アジアの農業機械化―畑作農業の振興」と題し基調講演。

続いて、帯広畜産大畜産学部の岡安崇史助教授が「アジアの農業と畜産」、北海道農業機械工業会の三浦一郎専務理事が「アジアの農業機械化」と題し講演する。

十勝の味自慢一堂に
イベント広場 食彩祭も開幕

食彩祭ではジャンボフーズとして羊の丸焼きが登場し、来場者の食欲を誘っていた（写真・折原徹也）

【政経部＝山本篤】十勝農協連、十勝毎日新聞社、帯広市）は、農業の食文化を全国に発信する目的にした「とかち食彩祭'98」（実行委員会＝十勝農協連、帯広観光連盟、帯広商工会議所